配布資料

新潟市

市長記者会見

期　日　　令和８年１０月２８日（水）

時　間　　午前１０時～

場　所　　対策室２・３

発表内容

１　第５回世界湿地都市ネットワーク市長会議の新潟開催

（環境政策課）

２　第１０回日仏自治体交流会議の新潟市開催決定

（国際課）

３　「アリーナと新潟の未来を考えるシンポジウム」の開催

（スポーツ振興課）

４　新潟市こころの悩みＡＩ相談

（こころの健康センター）

配 布 資 料

新潟市

令和８年 10 月 28 日
新潟市記者発表資料

第５回世界湿地都市ネットワーク市長会議の新潟開催について（国内初開催）

ラムサール条約の湿地都市認証を受けた都市（R8.9 月末時点、27 か国 74 都市）による国際会議。湿地都市間の交流やさらなる情報発信を目的として、毎年開催しており、日本では初めての開催。

１　新潟開催について

・会議名　　第５回 世界湿地都市ネットワーク市長会議
・テーマ　　-Living with Wetlands-（湿地とともに生きる未来）
・日　時　　令和８（2026）年 11 月 30 日（月）～12 月２日（水）の３日間
・会　場　　朱鷺メッセ（中央区万代島）、ほか市内の湿地
・参加者　　湿地都市認証を受けた都市の代表者、ラムサール条約の関係者など、150 人程度の見込。

２　会議内容（予定）…別紙（２枚目資料）参照

・ラムサール条約の事務局長である、ムソンダ・ムンバ氏（写真右）が初めて会議に出席。
・会議の内容はＡＩ等により通訳又は翻訳され、主要なプログラムは一般公開。
・関係者のみではなく、市民の皆さまが参加できる開かれた会議とする。



ラムサール条約締約国会議（COP14）でムソンダ・ムンバ事務局長から認証証書を授与される中原市長（R4.11 月）

３　参加都市一覧（令和８年 10 月 28 日時点）

地域	国	湿地都市		オブザーバー都市	
アジア	タイ	シーソンクラーム	1	－	
	韓国	金海（キムヘ）市、高敞（コチャン）郡、順天（スンチョン）市、西帰浦（ソギィポ）市、済州（チェジュ）市、昌寧（チョンニャン）郡	6	英陽（ヨンヤン）郡、仁川（インチョン）広域市教育庁	2
	中国	－		深圳（シンセン）市	1
	日本	新潟市、名古屋市、出水市	3	釧路市、福島県、会津若松市、猪苗代町、郡山市、小山市、阿賀野市、熊本市	8
	フィリピン	バランガ	1	－	
中南米	チリ	バルディビア	1	－	
欧州	ハンガリー	タタ	1	－	
	ポーランド	ポズナン	1	－	
中東	イラン	ヴァルザネ	1	－	
アフリカ	チュニジア	ガール・エル・メル	1	－	
	ボツワナ	シャカウェ	1	－	
	11 カ国	**17 都市**		**11 都市**	

【問い合わせ先】
新潟市環境政策課
世界湿地都市ネットワーク市長会議担当課長　草間
電話０２５－２２６－１３５６(直通)

参　考　機運醸成に向けた取組み



◆「国際湿地都市 NIIGATA」2026 情報発信プロモーション

媒体特性に応じたターゲット設定を行い、本市の潟・湿地の持つ多様な価値や魅力、保全・再生の取組みなどを YouTube や Instagram を活用して配信。

媒　体	内容・構成	主なターゲット	二次元コード
YouTube	・メイン動画（5～10 分程度） ・専門用語を避け、図解や具体例を用いた分かりやすい構成	小学生（概ね 4 年生以上）	
Instagram	・ショート動画（60 秒程度） ・テンポの良い編集、視覚的訴求を重視した構成	大学生・専門学校生	

◆ラムサール給食

【実施時期・対象校】

令和８年１１月第３週～第４週、又は３０日 ※実施日は各学校により異なる

市立の小・中学校、幼稚園及び特別支援学校

【ラムサール給食 共通メニュー】

・湿地の恵み（ハスの根“レンコン”＋お米）を使った「ラムサールカレー」

・「大根」のサラダ ※ラムサール条約湿地「佐潟」がある西区赤塚地区の大根は全国的に有名

・ハクチョウのイラストが入ったぶどうゼリー ※新潟市はコハクチョウの越冬数日本一

・アルビレックス牛乳　※クラブマスコットの「アルビくん」はハクチョウがモチーフ

・世界湿地都市ネットワーク市長会議 開催記念カード　※湿地カード風の限定デザイン

（イメージ）



◆シティドレッシング（イメージ）

10 月下旬から、新潟駅東西連絡通路や会場となる朱鷺メッセ周辺などで、シティドレッシングを実施するほか、ビュー福島潟や佐潟水鳥・湿地センターといった市内の公共施設でポスターやのぼりを設置し、市民の関心や歓迎機運の醸成を図る。

※設置個所は現時点の予定

市内バナー		横断幕		のぼり
				
新潟駅東西連絡連絡 ３５か所 10/28 設置予定	朱鷺メッセ前道路 ４４か所 10/29 設置予定	朱鷺メッセ連絡通路 １か所 11/19 設置予定	市役所本館 １か所 10/22 設置済	３０か所

別　紙　資　料

主催　Wetland City NIIGATA

共催　RRC-EA

第５回世界湿地都市ネットワーク市長会議　プログラム（案）　テーマ：-Living with Wetlands-（湿地とともに生きる未来）

日　　時	【1 日目】11 月 30 日（月）	【2 日目】12 月 1 日（火）	【3 日目】12 月 2 日（水）
会　　場	朱鷺メッセ	朱鷺メッセ	市内の湿地等（フィールドビジット）
会議内容	**14:00～14:30 開会式（２Ｆメインホール）** 【主催者及び来賓あいさつ】 ・新潟市長 ・ムソンダ ムンバ氏（ラムサール条約事務局長） ・未定（環境省） ・未定（新潟県） ・ソ スンオ氏（ラムサール条約東アジア地域センター長） **14:30～15:10 基調講演（２Ｆメインホール）** ・イングリッド クッツェー氏（ICLEI アフリカ世界都市多様性センター） ・中村 玲子氏（NGO ラムサールセンタージャパン フェロー） **15:10～16:10 ポスター発表コアタイム（２Ｆホワイエ）** **【展示ブース】** ・行政（市・県・国）、学校（小中学校、大学）、市民団体が潟・湿地をテーマにしたパネルや展示資料の説明  佐潟ハス復活プロジェクトの様子（赤塚小学校） **【企業ブース】** ・潟・湿地に関連した商品の販売  ヨシ糸を使った亀田縞の限定グッズなど **16:10～17:30 全体発表（２Ｆメインホール）** ・鈴木 涉氏（環境省自然環境局野生生物課長） ・澤口 晋一氏（新潟国際情報大学 教授） ・小林 聡史氏（釧路公立大学 名誉教授） ・マリア アンジェリカ氏（ラムサール条約独立助言委員会） **18:00～20:00 歓迎夕食会（ホテル日航新潟４Ｆ朱鷺の間）**	**9:00～10:15 テーマ別分科会（２Ｆメインホール等）** 【分科会テーマ】 ①湿地教育 ②公民連携 **10:30～11:45 テーマ別分科会（２Ｆメインホール等）** 【分科会テーマ】 ③ブランディング ④生物多様性 **11:45～13:15 昼食会（ホテル日航新潟３０Ｆスカイバンケット）** **13:15～14:15 座談会（２Ｆメインホール等）** 【座談会の参加対象者】 ①地域団体　②ユース（35 歳以下） **14:30～16:30 ネットワーク総会（４Ｆ国際会議場）** ・新潟宣言の採択など  ネットワーク総会（第 3 回会議） **16:45～17:15 閉会式（２Ｆメインホール）**  引継ぎセレモニー（第 4 回会議）	**6:25～7:35 早朝ハクチョウ観察（鳥屋野潟）** **9:00～18:00 フィールドビジット（市内視察）** ・バス３台で異なるルート（順番）で視察予定 〈視察先〉 ・福島潟、佐潟 ・信濃川（ウォーターシャトル）※悪天候の場合はバス振替 ・新潟市歴史博物館（みなとぴあ） ・ハクチョウ観察（水田など） ・㈱アクアデザインアマノ（西蒲区）　など **ポイント①【会議の公開】** ・世界湿地都市ネットワーク市長会議での初の試みとして、基本的に全ての会議を一般市民の皆さまへ公開します。 ※朱鷺メッセでの全ての会議（夕食会、昼食会を除く）を公開します ・来場者には、国際会議開催記念限定のハクチョウカードと、抽選で湿地カードホルダーをプレゼント。  **ポイント②【ＡＩ通訳】** ・世界湿地都市ネットワーク市長会議での初の試みとして、ＡＩ通訳を全面的に導入します。 ・主要な会場ではＡＩによる同時通訳を大型ビジョンに表示し、一般来場者にも分かりやすい会議を目指します。 **ポイント③【新潟宣言】** ・都市と湿地が共存する新潟市の特色を世界に発信するため、ネットワーク総会に「新潟宣言」を提案します。 ・都市と湿地の共生のあり方について、湿地都市ネットワークの総意として誓約し、発出することを目指しています。



第5回

世界湿地都市ネットワーク市長会議

5th Roundtable of Wetland City Mayors

2026.11.30(月) → 12.2(水)

一般入場可

会場 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター 他

NIIGATA

主催 新潟市　共催 ラムサール条約東アジア地域センター（RRC-EA）

NIIGATA JAPAN 5th Roundtable of Wetland City Mayors Nov.30 - Dec.2 2026

Ramsar Wetland City



世界の湿地都市が新潟に集まる

第5回世界湿地都市ネットワーク市長会議
5th Roundtable of Wetland City Mayors

世界湿地都市ネットワーク市長会議とは

ラムサール条約の湿地都市認証を受けた都市（27か国74都市（R8.9現在））による国際会議です。湿地都市間での交流やさらなる情報発信を目的として年に1回「市長会議」を開催しており、日本では初めての開催となります。

湿地都市認証とは

ラムサール条約の理念である「湿地の保全や賢明な利用の推進」および「都市のブランド化」を図ることを目的とし、地域関係者の参加や環境教育など様々な国際基準に該当する“都市（自治体）”に対して認証を行うものです。国内では新潟市、出水市（鹿児島県）、名古屋市の3市が認証を受けています。（R8.9現在）

会議テーマ

湿地とともに生きる
～ Living with Wetlands ～

湿地とともに生きる未来を実現するため、世界の湿地都市がともに考え、行動することを目指します。



会議プログラム

日程	会場	内容
11月30日(月)	朱鷺メッセ	開会式、基調講演、ポスター発表、全体発表、歓迎夕食会、展示ブース
12月1日(火)	朱鷺メッセ	テーマ別分科会、座談会、ネットワーク総会、閉会式、展示ブース
12月2日(水)	市内の湿地や関連施設	フィールドビジット（市内湿地視察）、二都市間会議

市民の皆さまも参加できます

会議の内容はAI等により通訳され、主要なプログラムは一般公開します。
パネル展示など多くの市民や関係団体の皆さまから参加いただける会議ですので、ぜひ会場でご体験ください。

※歓迎夕食会やフィールドビジット、二都市間会議など一部を除きます。





問い合わせ

新潟市環境政策課

TEL：025-226-1356

メール：kansei@city.niigata.lg.jp

会議の詳細はこちら

新潟市 HP

配　布　資　料

新潟市

令和 8 年 10 月 28 日
新潟市記者発表資料

第 10 回日仏自治体交流会議の新潟市開催が決定しました

2026 年 10 月 21 日(水)から 24 日(土)まで、フランス・カンヌ市で開催された第 9 回日仏自治体交流会議において、2028 年に開催される次回の第 10 回日仏自治体交流会議の開催地が新潟市に決定し、10 月 24 日(土)に行われた閉会式で発表されました。

1. 会議名

第 10 回日仏自治体交流会議

2. 参加自治体

姉妹都市等の関係にあるフランスおよび日本の地方自治体、
または今後の日仏自治体間交流を希望する両国の地方自治体

3. 参加機関

【日本側】
一般財団法人自治体国際化協会(CLAIR)、総務省、外務省、全国市長会、全国町村会、在日フランス大使館
【フランス側】
フランス都市連合(CUF)、欧州・外務省、在フランス日本国大使館、
CLAIR パリ事務所　他

4. 会議概要

・ 日仏両国の自治体が一堂に会し、両国の自治体が抱える共通の行政課題や先進施策等について発表・議論することで両国の地方自治の発展に寄与することを目的とした会議。
・ 2008 年 10 月にフランス・ナンシー市で開催された第1回会議以降、通常2年ごとに、フランスと日本で交互に開催されている。(別紙1「日仏自治体交流会議開催一覧」のとおり)

5. 開催時期

令和10年秋頃(予定)　会議は概ね4日間の予定

6. 会議内容

未定
【参考　第9回会議内容】
全体テーマ:　　未来の地域の魅力を築く:イノベーションから持続可能性へ

【お問い合わせ先】　新潟市国際課長　加藤
電話０２５－２２６－１６７０(直通)

別紙1　　日仏自治体交流会議　開催一覧

	開催年月	開催都市	全体テーマ	参加 自治体数
第1回	平成20年10月 （2008）	ナンシー	地方ガバナンスと持続可能な発展	日:12 仏:17
第2回	平成22年5月 （2010）	金沢	地方ガバナンスと持続可能な発展	日:26 仏:18
第3回	平成24年8月 （2012）	シャルトル	グローバル化への対応に向けて、自治体は如何に備えるべきか	日:15 仏:27
第4回	平成26年10月 （2014）	高松	グローバル化時代において、地域経済の活性化を図るために自治体は何をなすべきか	日:28 仏:17
第5回	平成28年10月 （2016）	トゥール	イノベーション～経済的ダイナミズムと国際的な輝きを日仏自治体にもたらすイノベーション～	日:19 仏:22
第6回	平成30年10月 （2018）	熊本	成熟社会における都市の魅力と価値の向上～人口規模や経済規模の増加に頼らない持続可能なまちづくりのビジョンと手法～	日:35 仏:17
第7回	令和4年10月 （2022）	エクサン・プロヴァンス	ポストコロナの世界における包摂的で持続可能な地域のためのイノベーションの緊急性	日:14 仏:22
第8回	令和6年11月 （2024）	静岡	日仏自治体のパートナーシップが世界にもたらす新しい価値	日:35 仏:19
第9回	令和8年10月 （2026）	カンヌ	未来の地域の魅力を築く:イノベーションから持続可能性へ	日:16 仏:22

二重線枠は姉妹都市を表す

＜第9回開催の様子＞





配　布　資　料

新潟市

令和８年１０月２８日
新潟市記者発表資料



【お問い合わせ先】
新潟市スポーツ振興課長　　大坂　一男
電話０２５－２２６－２５８８（直通）

配　布　資　料

新潟市

令和８年１０月２８日

新潟市記者発表資料

「新潟市こころの悩みＡＩ相談」について

○趣　旨

本市では、こころの悩みを抱えた方が、より相談しやすい環境を整えるため、チャット型のＡＩと対話しながら相談ができる「こころの悩みＡＩ相談」の実証実験を実施します。

相談したくても、「電話や対面が苦手」、「人に知られたくない」などの理由から、相談につながりにくい方がいます。こうした相談への心理的なハードルを下げる方法の一つとして、ＡＩを活用することで、新たな相談の入口となるかを検証します。

	相談種別	概　要
現状の相談	電話相談	24 時間体制の電話相談
	メール相談	ホームページや相談サイトからの相談
	来所相談（面接）	相談員や精神科医による相談
今回、実証実験を行う相談	AI相談	「傾聴」と「共感」に特化したAI相談

○実証実験の概要

実施期間	令和８年１１月１日～令和９年１月３１日
対象者	新潟市民
相談方法	チャット型の傾聴ＡＩを活用したオンラインによる相談
位置付け	電話相談・面接相談などに加え、相談への入口の一つとして活用できるかを検証

○利用方法

① スマートフォン等で二次元コードを読みとる　又は新潟市ホームページから検索

② 専用サイトにアクセス

③ チャットで相談

←専用サイトはこちら

★お願い

報道機関として閲覧する場合は、**「あなたのことを、なんとお呼びすればいいですか？」**の設問に**「所属名（〇〇新聞 等）」**を入力してご使用ください。

使用は**10月31日（土曜）まで**としてください。

相談者と判別するため、ご協力お願いします。

○その他

こころの悩みＡＩ相談の特徴は、答えを出す、問題解決を目指すＡＩとは異なり、「傾聴」と「共感」により、相談者のこころ悩みを受け止め、気持ちを整理できる点にあります。

AI 相談、使ってみませんか？

「相談」といっても正解や答えを出すものではありません。「話すほどじゃないかも…でも、誰かに聴いてほしい…」寄り添ってくれる相手として使ってみませんか。

【お問い合わせ先】

新潟市こころの健康センター　所長　福島

電話　０２５－２３２－５５５１（直通）